

危険性が高いと思われる民有ブロック塀の現地調査の結果について

平成30年度以降、通知文の送付等により改善を促してきた民有ブロック塀のうち、高さや傾きが大きく危険性が高いと思われるものについて、現地調査を実施した。

現地調査

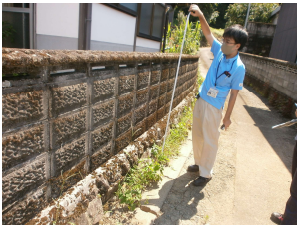
- 【期 間】 令和3年7月5日～9月16日
- 【調査内容】 劣化状況の確認（高さ、傾き、ひび割れ、ぐらつき等）
所有者に対し維持管理や撤去補助制度について説明
- 【対 象】 危険性が高いと思われるブロック塀 267件
うち高さが2.2mを超えるもの 112件
傾きが5度以上のもの 155件

調査手法と項目

- 【測定による確認】
- 塀全体及び異常がある部分の長さ
 - 道路から塀頂部までの高さ(段数)
 - 傾き(全体or部分)
- 【目視,触診による確認】
- 形態(塀or土留or土留+塀)
 - 控え壁の有無
 - ひび割れ(大きさ,範囲)
 - ぐらつき(範囲)



▲傾きの測定



▲調査状況

	結果の分類	件数			状況	今後の対応	備考
①	特に危険性があるもの	127	45	ブロック部分の高さが2.2mを超え,建築基準法施行令で規定する仕様に適合しない	・倒壊した場合に歩行者等に危害がおよぶ可能性が高い	追跡調査 通知文送付	戸別訪問
			43	道路側に5度以上の傾きがある			コーン設置
			39	ブロック部分は2.2m以下であるが、全体高さは2.2mを超える			
②	危険性があるもの	59			・敷地側に5度以上の傾きがある ・全体高さは2.2mを超えるが、ブロック部分は6段(1.2m)以下で傾きは5度未満である	同上	
③	対応済みまたは歩行者等への影響がないもの	81			・撤去・改修などの対応済み ・道路側に5度以上の傾きがあり、倒壊の恐れはあるが、段数が4段以下または水路が存在するため、歩行者等に危害がおよばない		

①の事例



ブロック部分の高さが2.2m超



塀全体の高さが2.2m超



道路側への傾きが5度以上

②の事例



敷地側への傾きが5度以上

③の事例



塀と道路との間に水路がある



傾きは大きい、高さが低い